

『神奈川県植物誌2001』刊行記念特別展 — 神奈川の植物・その10年の変化 — 平成13年7月20日(金・祝)～9月16日(日)

1979年、植物に興味をもつ市民が集まり神奈川県植物誌調査会が発足、9年間にわたる県内の植物分布調査の後、『神奈川県植物誌1988』がまとめられました。その後も平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、横浜市こども植物園、川崎市青少年科学館、厚木市郷土資料館、相模原市立博物館そして当館を活動拠点として分布調査は続けられ、このたびその成果を『神奈川県植物誌2001』として刊行することになりました。

特別展では、神奈川県植物誌調査会の行った調査結果をもとに、植物をとおして神奈川県を自然を見直すとともに、この10余年間の植物の分布状況を紹介します。

★主な展示資料

神奈川県内の植物地理と植物相、新しい帰化植物、再発見された植物、分布の変わる植物・変わらない植物、レッドデータ植物、地方植物誌と自然保護などを多数の標本、生態写真、分布図などで紹介します。特別展示室にて開催。

★特別展観覧料

20歳以上(学生を除く)	200円
20歳未満・学生	100円
高校生以下・65歳以上	無料

ライブラリー通信

ケンペル

先日、テレビ番組の「水戸黄門」の中で『ケンペル』という外国人が登場するシーンがありました。寸見しただけですが、時代状況からみて元禄時代に日本にやってきたオランダ商館付のドイツ人医師エンゲルベルト・ケンペルだと思われました。

ケンペルは北ドイツのレムゴー出身で、ドイツ国内各地の大学に遊学し様々な学問を修めた後、スウェーデンがペルシャに送る使節団の一員に加わり、更にその後オランダ東インド会社に医師として雇われたことで来日する機会を得ました。アジア各地を経てケンペルが来日したのは元禄3年(1660年)、39歳の時です。当時は年に一度オランダ商館長一行は江戸まで参府するのが慣わしで、ケンペルも二度随行し当時の五代將軍綱吉に拝謁しています。日本での滞在はわずか二年ほどでしたが、その間に日本の事情を調査研究し、多くの資料を持ち帰っています。ケンペル来日から約130年後の1823年、同じように日本にやってきたシーボルトほどには一般には知られていませんが、1990年に来日300周年の記念事業が開催されたことを契機にその業績を再評価する機運が高まりケンペル関係の書籍の出版が目立つようになりました。

そのケンペルが帰国して1712年に刊行した著作に『AMOENITATUM EXOTICARUM 1712』があります。これはアジア諸国の紀行・見聞録であり900頁を超える大冊でラテン語で書かれています。原題は「異邦の魅力」といった意味ですが、われらが先達はこれに『廻国奇観』という洒落た邦題を付けたので今でもこの書名で呼ばれています。ケンペルはこれを自費出版したとも言われていて、何部ほど刷られたのかは不明ですが、現在では日本でも所蔵している図書館は極めて限られた稀覯本となっています。ところがこの書は『廻国奇観』なる立派な邦題を持ちながら、何故かこれまで完全な邦訳本は出版されていないようです。ここはぜひ平凡社の東洋文庫に入れてもらいたいところですよ。

ケンペルはこの『廻国奇観』の第5部で日本産の様々な植物を紹介しています。それぞれの植物の説明に漢字名を宛てその日本語読みをローマ字で付記し、更に重要な植物には精密な図版まで付けて詳細に記述しています。ラテン語で書かれた300年もの洋古書に漢字が刷られているのを見ると何だか不思議な感慨を覚えます。ただ歴史的にはまだリンネの以前のことですからもちろん学名は付与されていません。

ケンペルの著作にはもう一冊『日本誌』というのが知られていますが、こちらは江戸時代から何度も翻訳されて、新しいところでは1970年代に今井正訳で霞ヶ関出版から刊行されていますし、特にケンペルの江戸参府の部分はいく度も翻訳されていて1977年には平凡社の東洋文庫にも収められています。内容は当時の日本の社会、風俗、政治、経済から動植物に至るまでの緻密な観察記録で、この著作によって初めて日本の事情が正確に紹介され、その後のヨーロッパの日本観の基礎を築いたといわれています。

ところでこの『日本誌』、元原稿はケンペルがドイツ語で書いたものですが、彼の生存中には刊行されませんでした。死後十年ほどして刊行されましたが、それは本国のドイツからではなくイギリスから刊行されるという奇妙な経過をたどっています。『日本誌』が世に出るまでには様々な紆余曲折があったようです。今回はその辺の事情と、ケンペルと箱根との関わりについてもう少し御紹介したいと思います。

<参考図書>

『ケンペルのみた日本』(日本放送出版協会)

『ケンペルの見たトクガワ・ジャパン 無限大 No.87』(日本アイ・ピー・エム) (司書 内田 潔)

催し物のご案内

■室内実習&野外観察

「先生のための化石入門」[博物館/山北町]
化石資料(中津層産)を学習教材として活用するためのヒントを考えるほか、野外での露頭観察(足柄層群)も行います。主に教員対象の入門講座ですが、一般の方も大歓迎です。

日時/7月20日(金・祝)・21日(土)・22日(日)の3日間 10:00~16:00

対象/教員と一般 12人

申込締切/7月3日(火)

■室内実習「サルを知ろう」[博物館]

博物館の展示や標本を使って、サルからヒトへの進化を学びます。

日時/8月4日(土)、5日(日)の各日ごと

各日とも10:00~15:00

対象/各日とも小・中学生 20人

申込締切/7月17日(火)

■野外観察「秋の草原を観る」

[箱根町仙石原~湖尻]

オミナエシ、マツムシソウなど秋の草原を彩る草花のほか、イネ科植物を観察します。

日時/9月16日(日) 9:30~15:00

対象/小・中学生とその保護者 40人

申込締切/9月4日(火)

■野外観察「キノコウォッチング」

[鎌倉市広町緑地]

秋の雑木林ではいろいろなキノコが見つかります。どこにどんなキノコが生えているのか、キノコまめ博士になって名前調べに挑戦してみませんか?

日時/9月30日(日) 10:00~16:00

対象/小学生~高校生 25人

申込締切/9月18日(火)

申込方法

往復はがきに、催物名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、博物館宛てにお送りください(消印有効)。

ご家族など数人でご希望の場合は連名でお申し込みになれます。特に記載の無いものは参加無料です。応募多数の場合は抽選となります。

申込・お問い合わせ先

〒250-0051 小田原市入生田499

神奈川県立生命の星・地球博物館企画情報部

電話 0465-21-1515